究極のチャーハン

大河内健詞

［登場者］
弟子
師匠
浮浪者
科学者

悲劇的な音楽がかかる。明転。師匠を抱きかかえた弟子がいる。

弟子　　師匠、師匠、死なないでください！
師匠　　わしはもう駄目だ・・・
弟子　　私はまだ師匠に教わらないといけないことがたくさんあります！
師匠　　大丈夫、お前はもう一人前だ
弟子　　いいえ、私のチャーハンは師匠の足下に及びません！
師匠　　そうか、ではお前にチャーハンの極意を教えよう
弟子　　チャーハンの極意ですって！？
師匠　　チャーハンの極意、それは
弟子　　それは・・・
師匠　　ごはんを、パラパラに、するのだ・・・
弟子　　ごはんをパラパラに・・・どのくらいパラパラにすればいいんですか？
師匠　　パラパラであれば、パラパラであるほど、よいチャーハン・・・
弟子　　どうすればパラパラになるんですか！　教えてください！　師匠！　ねえ！
師匠　　それは・・・(苦しそう)
弟子　　師匠！　もう、しゃべらないで！
師匠　　お前がしゃべらせたんだろう
弟子　　師匠！　師匠！
師匠　　（ガクッ）
弟子　　ししょう〜！！

師匠が天に召される　(今後の師匠は回想として現れる)。悲劇的な音楽が止まる。

弟子　　ああ、師匠が逝ってしまった。もう師匠に頼ることはできない。
　　自分の力で、チャーハンを作らねば！

努力を表現する音楽がかかる。（中華鍋とお玉を取り、チャーハンを作る）

弟子　　チャーハンを・・・師匠のチャーハンを・・・
こうか？　これでいいのか？　（試食する）ちっくしょう！！　べたべただ！
こんなものはチャーハンじゃない！　捨ててやる！

弟子、チャーハンを投げ捨てる（マイム）。浮浪者がチャーハンを食う。

弟子　　ん、浮浪者か・・・こんなチャーハン、浮浪者しか食べない！！
師匠　　パラパラであれば、パラパラであるほど、よいチャーハン
弟子　　そうだ、もっとパラパラにしないと・・・べたつくのはなぜだ？
浮浪者　　水分が多いな
弟子　　何だって？　もう一度言ってくれ！
浮浪者　　水分が多いんだよ。
弟子　　そ、そうか！　水分だ！　ありがとうおじさん！
そうだ、熱で水分を飛ばし、油でコーティングすれば良いんだ！

弟子、再びチャーハンを作る。

弟子　　熱い・・・汗が止まらないよ。
でも師匠のチャーハンのためだ、がんばろう！
よし出来た！　けっこうパラパラじゃないか？
どうだいおじさん！　食べてみなよ！（投げ捨てる）
浮浪者　　何故下に。うむ・・・うむ・・・だいぶ上手くなったな。
弟子　　やった！
浮浪者　　実はな、お前の師匠、李料理長はわしが昔
弟子　　（無視して）ああ駄目だ！米粒どうしが若干くっついている・・・
これは私が追い求めているチャーハンじゃない！
浮浪者　　これくらい許容
弟子　　あああ駄目だ！　駄目だ！　師匠に顔向けできない！
師匠　　パラパラであれば、パラパラであるほど、よいチャーハン
弟子　　おじさんのアドバイスは有り難かったけど、僕は店をたたんで修行の旅に出るから、じゃあね！

努力を表現する音楽が止まる。旅を表現する音楽がかかる。

弟子　　よし、歩きながら勉強しよう！　そもそもどうしてものはくっつくのか？
化学の本を読めば書いてあるはずだ！
（本を読む）フムフムなるほど、ものは分子でできている。分子は共有結合、イオン結合、水素結合などの力で結び付いている！　これを断ち切るにはもっとエネルギーが必要だ！

中華鍋と、ガスの熱じゃ駄目だったんだ！

◆映像・・・化学結合の説明（イメージ図)。

弟子　　そうこうしているうちに千葉県君津市に来たぞ。

◆映像・・・君津市の説明

弟子　　君津市といえば製鉄の街だなあ。

旅を表現する音楽が止まる。
◆映像・・・製鉄所の写真（外観）

弟子　　あ、そうだ！（効果音：閃き）
溶鉱炉の熱でチャーハンを作ろう！

溶鉱炉を表現する効果音。
◆映像・・・溶鉱炉の中の写真

弟子　　熱い・・・汗が止まらないよ。でもチャーハンのためだ。この、あらかじめ作ったチャーハンを・・・えい！（チャーハンをハケに投げる)・・・どうだ！
出来たか？　究極のチャーハンが！

炭化したチャーハンが戻ってくる。

弟子　　うわあ！　駄目だ！　炭化して､むしろくっついているじゃないか！　こんなチャーハン、コークスの代わりに鉄を還元してしまえ！（ハケに投げ捨てる）

溶鉱炉を表現する効果音、止まる。旅を表現する音楽がかかる。

弟子　　うーん、一体何が間違っていたんだろう。温度は十分だったはず。もっとエネルギーが必要なのか？
おっと、そうこうしているうちに茨城県つくば市に着いたぞ。

◆映像・・・つくば市の説明

弟子　　つくば市と言えば高エネルギー研究所だな。

◆映像・・・高エネルギー研究所の写真
旅を表現する効果音、止まる。

弟子　　あ、ひらめいた！（効果音：閃き）
　　加速器だ！　加速器のエネルギーを使おう！

◆映像・・・加速器の写真
暴走を表現する音楽がかかる。

弟子　　すみません！　加速器を貸してください！
科学者　　いいけど、何に使うの？
弟子　　チャーハンを作るんです！
科学者　　え？

◆映像・・・加速器でチャーハンを作る実験。成功する。

科学者　　成功だ！　すべて素粒子になったぞ！
弟子　　そうですか
科学者　　どうして喜ばないんですか？　まだ不満が？
弟子　　まだ物質としての形を持っている、これは究極のチャーハンじゃない
科学者　　現在の科学技術ではこれが限界です。
弟子　　私はもっと先を見たい、物質であることの枠を超えた究極のチャーハンを・・
科学者　　あなたは、一体何をするつもりなんですか・・・
弟子　　ごはんを、全てエネルギーに転換するには、同量の反物質が必要だ。
　　反物質で出来たチャーハン、「反チャーハン」を作るんだ・・・

◆映像・・・宇宙から見た地球に字幕
　　「20 年間、宇宙太陽光発電で作ったエネルギーを全て反物質製造に使い、「反チャーハン」は完成した」

弟子　　出来た・・・あとは反チャーハンを普通のチャーハンと反応させれば

◆映像・・・字幕
　　「反チャーハンとチャーハンの対消滅により、水爆 250 個に相当するエネルギーが瞬時に発生。地球は破壊された。」
◆映像・・・壊滅する地球

弟子　　師匠、これが究極の・・・
師匠　　パラパラであればパラパラであるほど、よいチャーハン
弟子　　ししょう～！　ししょう～！！

師匠は弟子を優しく包み込み、暗転。